NIE実践報告

1．タイトル：☆循環型社会を目指して　~社会ができること　自分ができること~

2．学校名

愛媛県立上浮穴高等学校

3．実践者名（代表者名）

大野真由美

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

家庭科　23人

6．単元（本時の学習課題）名

私たちの生活と資源・環境

7．目標(狙い)

環境負荷の少ない生活を目指して、自分たちに何ができるかを考えさせる。

8．評価の視点

各自の消費行動と資源・環境問題との関連について考えさせ、環境に調和したライフスタイルの確立を図ることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

1 資源・環境を考える
(1)私たちの生活と資源・環境・・・2時間　　(2)これからのライフスタイル・・・2時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①各自の消費行動をチェックし、資源・環境問題の関連と循環型社会についての新しい取組を学習する。（1時間）
②各自で環境問題に関連する記事を集め、まとめる。（1時間）
③環境負荷の少ない生活を目指し、自分の生活を見直すと共に、グリーン・コンシューマーとして何ができるか考えさせる。（1時間）
④集めた記事を関連させながら、これからのライフスタイルの改善について、発表させる。（1時間）

（留意点）
・身近にある環境問題の例を提示し、より興味・関心を高めさせる。
・地球規模の環境問題ではなく、資源・ゴミ問題など、より身近な記事にも目を向けさせる。
・社会全体で取り組むべきことを他人事としてとらえず、自分自身の生活から見直さなければならないことを考えさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生活チェックで環境関心度の高い生徒は、記事の選択も比較的早く、内容も適切な記事を選ぶことができるようであった。自分の生活の中でいかに無駄遣いをしているか、ライフスタイルの改善を図らなければならないという意見が多くあった。

12．成果と課題

新聞記事を調べることによって最新情報を得ることができ、自ら学習する意欲の高まりが見られた。社会全体で取り組むべき課題が、自分自身が今の生活の中で取り組まなければならない課題であることをより深く考えることができた。問題解決学習の一つとして有効であったと思う。今後も、学校生活の中から環境負荷の少ない生活の実践を続けていきたい。